

先生のための夏休み経済教室 in 東京（中学対象）一日目記録

- 1 日時：2019年8月19日（月）
- 2 会場：東証ホール
- 3 参加者：145名
- 4 主な内容：進行役 三枝利多先生（目黒区立東山中学校主任教諭）

- ・主宰者（東京証券取引所、経済教育ネットワーク）挨拶、趣旨説明の後、以下の講義、授業提案、講演が行われた。

1 時間目 「新学習指導要領の下での経済教育」升野伸子先生（筑波大学附属中学校副校長）

(1) 新しい指導要領を知る

- ・次期の学習指導要領の解説社会編を元にまず話をする。
- ・一番大きいのは、四観点が三観点になったことである。理解と技能、思考・判断はよいとして三番目の態度・自覚に関しては、どのように評価すべきかが議論になっている。
- ・一度に三観点すべてを評価しなくともよいと大阪の教室で樋口先生はおっしゃっていた。
- ・内容は4つに分かれている。授業づくりに関しては、その授業は何に注目して、どのような教材を使って、どのような活動をして、その結果何を身につけさせるのかという指導要領の構造を押え、今日はこれに注目してこれをやるということが明確になれば比較的楽になる。
- ・対立と合意、効率と公正に関しては、理解させるための教材で「これを用いてほしい」という限定は、特に書かれていない。
- ・この教材でケーキの分け方がよくあげられるが、私は疑問に思っている。ケーキは一過性のものではないか。とはいえ、避難所の分配になれば重要な教材になるという意見もある。
- ・指導要領では、経済活動に関する諸課題について着目し、主権者として、よりよい社会の構築に向けて、その課題を解決しようとする力を養うとある。しかし、中学生が解決できる課題とは何か、悩ましいところではある。
- ・市場経済は万能ではないので、市場経済の欠点も教える。また、市場ではない配分もある。これは、古代の生産方式等を歴史的分野で学習している。

(2) 経済の授業で求められるポイントを知る

①経済活動の意義を学ぶ

- ・指導要領で書かれている、ア（経済活動の意義）とイ（市場経済の意義）の違いは？先生方がどう考えるか、資料の空欄に記入してほしい。

家庭は家庭なりの経済活動がある。一般の経済活動、例えば、誰が洋服を生産するのか、消費生活に必要なサービスを誰がどのように分担してどれだけ生産しているかというのは、家庭生活のなかの活動と似て非なるものである。

- ・私たちが必要なものやことをどのように調達してくるかというのは、家庭と、学校と、社会とでは違いがある。学校でいえば、限られた資源をどこに投入していくかは学校によって選択の

基準が異なっている。

- ・子ども部屋の配分原理のようないろいろな制約がある中での配分原理は市場とは異なる。

②市場経済の意義を学ぶ

- ・市場経済とは価格による選択である。価格をシグナルとして市場を通じた資源の配分原理になる。
- ・自分が消費している財やサービスを書き出していく。「私にいくらかかっているか？」を考える。個人が用意するものと税金で整備するものに分けて考えさせるとよい。
- ・生きていることに実はお金がかかっているのだということを意識させる。
- ・「私にいくらかかっているか」という活動から、価格の意識が登場するし、そのためには貨幣の学習が必要になる。その意味からも市場を理解するために貨幣の学習は早い段階でやったほうがよいと思われる。

③貨幣の次は家計を学ぶ。

- ・家計では家の収入と支出のグラフを読み解かせる。この資料を使って分析の話し合いをやらせることで、資料の見方や分析技能が深まる可能性がある。

④次が市場の仕組み、市場原理を学ぶ。

- ・その際、需要曲線・供給曲線では、現実的な状況を説明しにくい。理論で現実を説明しようとしないう節制が必要で、市場では、個々に勝手に判断していても何とかうまくいっているということが分かれば上出来である。
- ・例えば、京都のホテル建設、誰もホテルの建設件数を決めない。人気があるから作る。価格が高いから、価値が高いからつくる。それを需要曲線と供給曲線で説明するのは中学生には難しすぎる。
- ・また、リンゴやミカンのような例だと右上がりの供給曲線は書けない。短期と長期を区分しないような曲線を教える必要はないのでは。

⑤次に学ぶのが生産や金融の仕組みや働きになる。

- ・生産活動を中学生に理解させるのは難問。そのなかで企業のしくみやリスクとリターンを理解させられたらよい。ICT化などによるビジネスチャンスを考えさせるのはよいかもしれない。
- ・会計という言葉が指導要領で登場しているが、企業情報の開示、コンプライアンスという文脈で扱えば良い。
- ・お金に何ができて何ができないのかを考えさせるのも良い。事故を起こした時に、お詫びにお菓子は持って行くがお金は持っていかない。でも事故の損害賠償はお金。

⑥労働、財政を学ぶ

- ・この後に学ぶのが労働であるが、これは職場体験と結びつけて学ぶこともできる。カリキュラムマネジメントの実例になるのではないかな。
- ・国民の生活と政府役割が次にでてくるが、政治分野の学習の後でこの部分を考えさせた方がよいと私は考えている。
- ・ここでの学習は、生徒会予算に着目して、配分方法、基準、手続き、それを国の予算との関係などを考えさせる活動を通して効率や公正、多面的・多角的に考えさせるねらいを達成できれば良い。

(3) まとめ

- ・社会科の学習は、目の前の社会的事象を、社会的な見方・考え方をを用いてとらえ、その現象に気づくこと、自分はそれについてどう思うのか、なぜそう思うのかをいろいろな側面から考えること、そして、学びが行動につながっていくという構造であることをあらためて確認したい。
- ・最初に見たものが、授業を受けた後に、景色や意味が変わっていく授業を目指せば最高である。

<質疑> なし

2時間目 エコノミストとつくる経済の授業

A「歴史から公民を見通す金融の授業」 佐藤央隆先生（名古屋市立はとり中学校教諭）

(1) 歴史分野で経済に関する学習に取り組む意義

- ・歴史の中で経済を学習する意義は中教審の答申にもある。
- ・経済の構造が昔の方が単純だったので、モデルになるエッセンスを抽出しやすいという篠原先生からの示唆がある。
- ・それをうけて、まず、中学校の歴史分野の教科書にでてくる経済の用語とその関連事項を調査してみた。
- ・経済につながる視点（語句）があるにはあるが、なかなか公民的分野との繋がりが見えてこない。そのなかから、中学生が学ぶことができ、学ぶ意欲がわく教材の開発にとりくんだ。

(2) 実践の紹介

- ・中2での実践紹介、3年生で後々出てくるからねと言いつつ以下のような授業を行った。
- ・テーマ：「参勤交代による経済的影響を考えよう」
- ・目標は三つ、参勤交代に関する資料を読み取り、経済的影響や経済活動のしくみを理解する。「幕府」「藩」「商人」のそれぞれの参勤交代による経済的影響を判断し、その変化の過程や結果を表現できること。経済に関する歴史的な事象への関心を高めて、現代とのつながりを探究するようになることの三つである。
- ・学習方法は、知識構成型ジグソー法を採用。ただし、生徒の実情にあわせて、各班に2人ずつエキスパートを配置し、互いに説明を補完させる方式をとった。
- ・その際、教師は、あまり口を出さない。提供する資料は、最高レベルのところまでを資料として提示した。つまり、生徒は読み取れる力も千差万別であり、最大限そこまで読み説いて欲しいというところまでの資料を提供するようにした。
- ・クロストークでは、代表者に説明をさせる形をとって、最後にふりかえりを自己評価と文章で書かせた。
- ・具体的なワークシートと資料は配布資料を参照してほしい。
- ・結果として、参勤交代のプラス面、マイナス面を幕府、藩、商人にとってそれぞれ考えることができ、深まったとした生徒が多かった。

- ・興味深いのは、成績が下位の生徒が面白かったという評価をしていたことで、この層の生徒がどこまで内容を理解しているのかを確認してゆく必要があるかもしれない。

B 「公共財を題材とした教材開発～『雪かきゲーム』から考える」

行壽浩司先生(福井県美浜町立美浜中学校教諭)

- ・大阪の教室(2日目)と同じなのでそちらを参照していただきたい。

C コメント 篠原総一先生

- ・時間が一杯になり、最終のまとめて話すことになった。

3時間目 実践提案

A 「活動型授業の試み～将来の製作判断を目指して～」西崎弘人先生(目黒区立大鳥中学校教諭)

(1) 活動型授業を実施するポイント

- ・2ページで1感の授業や、社会科の得意な生徒だけ発言をする参加型授業ではどうなのか。改善が必要ではないかという問題意識があった。
- ・そこで目黒区の社会教育の研究会で出会った三枝先生の示唆からパッケージ型の科授業を構想した。
- ・パッケージ型の授業では、まず講義をして知識面の補充をして、調べ学習(ジグゾー法)にうつる、これを二度やり発表準備をして発表(屋台村方式)を行い、最後に振り返り講義を行うという流れで構成した。

(2) 実践例の紹介

- ・実践例は三つ用意したが、ここでは、「政治家になったつもりで、予算案を考えよう」という財政分野と政治分野の融合授業を紹介する。
- ・クラス6班で、それぞれの班を政党として模擬投票を行うことを組み込んで、各党が予算配分を考えるという全10時間の授業を構想した。
- ・10時間の配当は次のとおり。まず、3時間の講義を行い、2時間の調べ学習(調べる・まとめる・話し合う)を行う、それをうけて1時間の発表・投票を行い、1時間振り返りの時間を設ける。そして、2時間の講義(国会、内閣)を行い、最後に1時間単元全体を大観するという流れである。
- ・各政党が政権をとったとして、班長、首相、財務大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、文部科学大臣の役を一人一役で必ず役割を与え、責任感を養うようにこころがけた。
- ・また、20XX年の日本という形で条件を与え、議論や予算作成の方向性がバラバラにならないように配慮している。さらに、若者満足度、高齢者満足度、景気対策度、財政健全度という4つの指標を用意して、ワークシート作成時には、どこに重点を置くか、増減の加減なども計算させるようにした。
- ・これは、生徒に税金の使い道について考えてほしいという思いがあるからである。
- ・また、政治分野と経済分野を実際の社会と同じように、関連させた授業をしていきたいと考え

たからである。希少性と選択、効率と公正の概念等から、全てを満足させる政策は難しいことを生徒に気付いてほしいと考えたからである。

- ・大臣の立会演説会の原稿は生徒が作成したものをチェックし、読み原稿とするなどの指導を行った。

(3) 成果と課題

- ・授業の結果、生徒は、優先順位を決めて、できるだけ国民の意見を大切にすることが大事だということに気付けた生徒もいた。
- ・予算の配分という政治家（と官僚）の仕事を模擬体験することによって、そのすごさに気付いた生徒もいた。
- ・希少性と選楽、予算の適正な配分方法、政策決定についての政党、選挙、政治参加の理解が深まった生徒も多かった。
- ・課題としては、生徒の出した結論が若者層重視に片寄りがちであったこと、設定の甘さとバイアスがあったこと、活動型授業後の振り返りと、一般化、共有化の難しさなどを観じている。
- ・他にも、この授業前に、ディベート、模擬国連総会の授業を行ったが、時間の関係で省略したい。

B コメント（三枝利多先生）

- ・若い先生（気持ちの若い先生）の実践の試みとして紹介したい、それをひろげたいと思っている。
- ・この実践の有効な点は以下の通りである。
- ・一つは社会の仕組みを理解させようとしていること、二番目は単元構成を工夫していることである。三つ目は、教師が授業のねらいや観点をしっかり持っていること、四点目は生徒に活動する場面を与えている点である。
- ・以上から言えば、活動型授業の場合、教師が授業のねらいや観点を明確に持って指導にあたっているかどうか重要である。
- ・毎時間の授業ではなく、学期に1回や2回の活動型授業を通じて、主体的、対話的で深い学びをやっていくとよい。
- ・生徒が所属感を持ったり、自己有用感を持ったりできる授業が重要となる。
- ・では、パッケージ型授業の課題はなにか。
- ・深い学びとさせるためのポイントを指摘したい。それは、生徒も思いつきでなく、調査や根拠を持って、踏査、考察、判断することができるような場面を設定することである。そのためにも、パッケージで考える事が必要になる。
- ・また、生徒が満足したというだけでなく、何が身についたのかの確認が重要になる。
- ・評価方法も、生徒の発表内容や発言を見逃さずに、生徒にタイムリーに還元する努力が大切になる。そのためにも、教師は地獄耳である必要があり、私の場合は、大きな付箋を用意して生徒の発言をどんどん書いている。
- ・この実践が難しく観じられる先生もいるかとも思う。この種の実践ではグループ活動が大事で

あい、それは日常生活のなかから生み出される。また、逆に、改めて講義形式の一斉授業の大切さも考えておいて欲しい。

- ・評価に関しては、どこをどう評価するかのねらいや観点を教師が持っていることが必要になる。また、活動から学んだことがテストに反映されることも必要になる。
- ・ただ、授業のねらいを最初に生徒に明記することは、逆に答えを生徒に与えてしまっていることにもなりかねないので慎重に扱いたい。また、ルーブリックはどの自己評価では「これって観点別評価の証拠づくりでしょ」という生徒も出てきて、評価の難しさは残っている。
- ・最後に、若い（気持ちが若い）先生に向けて、チャレンジ精神を持つこと、世良い意味で教育者であるというプライドを持つこと、時間と手間と情熱をかけても「授業が変わった、生徒が変わった、教師が変わった」という体験を持って欲しい。

<質疑> なし

4 時間目 講演「教育に科学的根拠を」中室牧子先生（慶應義塾大学総合政策部教授）

1 日本の教育政策の問題点

日本では、教育になると経験に基づく話をしたり、再現性が少ない奇跡のような話が注目されたりする傾向にある。経験や希望のある話は大切だが、大量の個人の経験から科学的に観測される規則性＝エビデンスにもとづいたデータがなければしっかりとした教育政策は実行できない。

2 幼児教育の重要性

本日、言いたいことの一つは幼児教育の重要性である。アメリカのヘックマン教授（シカゴ大学。ノーベル経済学賞）のペリー幼稚園プログラムはランダム化比較試験の方法で、なるべく小さい時にしっかり教育にお金をかけた方が良い結果を生むことを明らかにしている。何にお金をかければ、子どもの教育効果が上がるか。それを実験により明らかにする。日本の教育でも必要な姿勢である。

3 非認知能力と教育の成果

幼児教育の成果で注目されているのが我慢強さなどの非認知能力である。認知能力と非認知能力の効果を測定するために、シカゴ大学では、3つの幼稚園を作った。結果としては、非認知能力を育てる幼稚園出身の生徒がもっとも高い能力を示している。

4 教員の質の重要性

教育でもう一つ重要なのは教員の質の重要性である。学力の伸びを付加価値として捉え、能力の高い先生が子どもの付加価値を高めていることがアメリカでは実証されている。

日本の教育経済学の研究は途についたばかりである。数字にすることが苦手、情報公開が不十分と問題も多いが、シカゴで非認知能力を育てる幼稚園をつくる時に、参考にしたのが日本の幼稚園である。日本は非認知能力を育てているモデルとなってきたことを伝えておきたい。

<一日目全体のまとめ> 篠原総一先生

- ・朝の趣旨説明で、基本的には「何を教えるか」、「どう教えるか」という社会科教育の原点に立ち返って、本日の報告を聞いて欲しいことをお願いした。その点について、とくに升野先生の講義と三枝先生のコメントを復習して欲しい。
- ・本日の実践提案は三つ。いずれも、教科書に即して教えるというオーソドックスな教え方ではない実践の報告である。それぞれを①「何を教え」、②「どう教え」るのか、という観点から振り返っていただきたい。
- ・何を教えるかについては、本日の実践報告では2つの方法が提示された。一つ目は、社会の課題を取り上げるやり方であった。雪かきゲームという公共財にかかわる課題について体験的に考えさせる方法である。大学入試試行テストでも、政府と地方自治体（都道府県や市町村レベルの成府）の役割を識別する問題が出題されたこととも関連している。いま一つの方法は、概念から教えるやり方で、本日の実践ではゲーム理論を使って取り上げる学習課題を整理するという手法である。ただし、ゲーム理論も含めて経済理論は先生方が想定以上にさまざまな前提条件の上に成り立っているため、理論を使った教育内容の選択には注意を必要である。この点については、どの理論で何を教えられるか、といった判断は経済教育ネットワークのエコノミストが先生方に代わって的確なコメントを提供できる。
- ・どう教えるかに関しては、いかに生徒に参加させ、興味を持たせるかがポイントとなる。
- ・本日の報告では、一つ目はインフュージョン（分野またぎ）という手法である。歴史と公民のインフュージョンが佐藤提案であった。
- ・二つ目は、みんなが参加しやすいものとしてゲーム理論を活用したのが行壽提案であった。
- ・三つ目は、複数の個別課題をカバーする大きな課題を設定して、何時間もの授業時間を使って徹底した参加型教育を行うという手法である。西崎提案では、学び終えてみれば、結果的に教科書で用意した教えるべき内容をカバーしてあるという建付けになっている。長丁場なので、先生には辛抱が必要な部分が残っている。
- ・難点としては、教科書に即した教え方でないだけに、先生の個人技に依存する部分が残る。また、準備に多大なエネルギーが必要であるが、その負荷を軽減し、本日紹介した優れた実践モデルを先生方がイージーに活用できるように、経済教育ネットワークでは改善していきたい。
- ・本日の提案以外に、明日は大阪の先生からの実践紹介があるので期待して欲しい。

以上、記録：中山義基、補足：新井明